

◆ 1. 1階床組。

★設計図伏図は、大引迄の伏図と、根太掛け根太の伏図に分けること。

● 土台(どだい)

土台は間仕切下地部分全てに伏設すること。建物の大きさ規模にもよるが、間仕切壁「軸組」・上部水平部位の部材等を配慮し、梁間方向と桁行方向をよく検討し、優先順位を決めること。内部土台の大割については、一般的に梁間方向を優先するのが最も多い。

○土台の継手・仕口に付いて。～土台の継手の位置は柱真より210mm(7尺)以上とすること。なお平行置の土台の継手位置は乱とすること。上級建物の場合は継手加工し接合した常態で墨付け作業を行う。

土台の継手について、上級継手は金輪継ぎ・しりばきみ継ぎとする。中級継手は腰掛け(腰入れ目遣い)かま継ぎとする。下級継手は腰掛けあり継ぎとする。最下級継手は合欠ぎ継ぎとするなど。伏図は継手位置を記入し、かま継ぎ・あり継ぎ・合欠ぎ継ぎの場合継手の上木と下木を伏図に記入すること。(アンカーボルトの位置がきまる)

土台隅の仕口に付いて。～出隅の仕口は、普通はえり輪付き小根ほぞ差し割りくさび打ちとする。上級は隅留めほぞ差しとする。木口ありは、木口ほぞに似ていて用途も同じであるが、ありが堅いと木口割れがおこるので加工に注意のこと。

土台下字部の仕口に付いて。～陰入れあり落とし(大入れあり落とし)---あり加工の成は土台成の $\frac{1}{2}$ ～ $\frac{2}{3}$ とする。また陰入れほぞ差し(大入れほぞ差し)とする。ただし粗雑(下級)なものは陰入れとせずに突き付けあり落としとする加工が多くなっている。

○換流・防湿・防蟻・防腐の対策に付いて。～基礎(コンクリート造)の天端と、土台回り(特に土台下端)に換流・防湿・防蟻・防腐の対策をわすれずに行うこと。

★特に大和地方では白蟻に付いては特に大和白蟻が多く生息している。自由自在に移動し、強い蟻酸にてコンクリートでも破壊するので防湿対策に万全に行うこと。

● 足固め(あしかため)

足固めに付いて、構造的・使用的に、本足固め、半足固め、はさみ足固めに大別される。本足固めは柱幅より幅が大きく建物内部(間仕切)が主に使われている。半足固めは柱幅と同じかやや小さい幅で建物外部に面する部分が主に使われている。はさみ足固めは複雑な部分に使われている。

○日本古来の建築様式で柱脚部の礎石、地覆正石、礎盤、沓石、などの上から柱が建てられ、柱の足許を固定し柱間の横のつなぎ材(横架材)としてかつ床組等の構造材として使用されていた。また仕口に付いては加工が複雑(完全固定型・独鉤締め)なため現在は使用されることが少なくなった。